

令和4年度 自己評価表(中間評価)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評価結果(9)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・アクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価に関する公開授業を実施した。 ・Google Classroom の活用を推進することができたが、Find! アクティブラーナーの活用が遅延した。(ICT機器活用100%) ・資格取得(合格率66%)	・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む	・Google for Education を活用した授業を実施 ・BYAD対応、ICT機器を活用し、ルーブリック評価・観点別評価のあり方についての校内研修会を実施	・1年次生のChromebook導入もあり、Google for Education の活用が進んだ ・観点別評価の方法については検討が必要 ・教科ごとの研修会を実施、または外部研修会に参加 ・評価に関する研修会はまだ実施していない	B	・Chromebookの活用方法について情報を共有する ・評価に関する研修会を10月に実施
				・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	実施していない	C	・12月に各教科で授業公開を実施予定
			・各系列の特色化と資格取得の促進し、資格試験合格率70%以上	・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けての支援	・家庭科 保育検定78%、食物検定88%(2級以上) ・STEP英検、全商英検の受験を促し学習支援を継続中 第1回STEP英検合格者:2級1名 準2級3名 ・数学検定準2級受検3名のうち1次合格1名 ・美術系進学希望者は個別指導	B	・継続した指導を続ける ・長期休業中等に、検定試験のための補習を実施 ・商業科は各種検定を実施中
				・学校独自事業の充実、特別支援学級との交流	・保育実習、介護実習はほぼ予定通り実施中 ・デッサン講習会を実施 ・「イチゴの栽培・収穫」はプランターを提供した ・「草花植栽活動(文化ホール)」は予定通り実施 ・大学講師による多読授業と英語科教員研修会を実施	B	・ひまわり分校との交流は10月下旬実施予定 ・マナー講習を2月に実施予定 ・第2回植栽(文化ホール・米子市役所)を10月に実施予定
			・探究学習を深化させ、課題解決能力の向上	・「新商都米子まちづくり」へ参画し、学習成果を米子市に提案	・進行中 ・四日市町壁画プロジェクト実施	B	・完成後提案予定 ・壁画プロジェクトは継続
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・安全意識の高揚と啓発に努めたがヘルメット着用率は15%であった。 ・遅刻者数は前年比14%減であった。 ・SNSに起因する問題行動があったが件数は減少した。 ・生徒会執行部による活動がコロナ禍ではあったが対策をして活動することができた。 ・国際交流については、コロナ禍の影響で直接はできなかった。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携が密にでき、早期に対応できた。 ・学校生活アンケートの2回目が未実施により比較分析ができなかった。	・規範意識・安全意識の向上	・米子高校生としての自覚を促す行動の啓発強化 ・SNSトラブル未然防止に向けたデジタル・シティズンシップ教育の推進	・デジタルシティズンシップ講演会をリモート実施 ・SNSに関連したトラブルが発生した ・服装や授業の受け方など規範意識が徹底できていない	B	・今後も継続して指導していく ・本人への指導と保護者との連携強化に努める
			・自転車ヘルメット着用率100%	・掃除の徹底と整理・整頓の推進、時間管理、挨拶の励行	・生徒ごとで掃除に対する意識の差があるが、ある程度できている ・生徒自身から挨拶をする数が増えてきている	C	・職員側からのあいさつ・声掛けを行っていく ・職員全体の取り組みとしていく
				・自転車ヘルメット着用徹底(生徒による啓発・PTA連携)	・年度当初はヘルメットをかぶっている生徒も多かったが、減少して着用率は20%程度である。	D	・継続した指導が必要 ・立ち番指導をはじめとした声掛け指導を継続していく
			・遅刻者数が前年比10%減少	・遅刻確認票による遅刻者指導の強化と保護者連携	・遅刻連絡がない生徒が毎月10名前後で続いている(前年度比50%増) ・遅刻確認票を提出しない生徒がある	C	・本人への指導、担任との連携、保護者への連絡・協力を続けていく
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)		・生徒の各種活動への積極的に参加	・生徒会執行部を中心とした自主的活動の充実。(はるかのかのひまわり絆プロジェクトの継続、創立50周年記念事業への参画)	・執行部員としての意識は高く、新型コロナ対策を徹底し青雲祭、荒鷲祭などの行事は実施できた ・はるかのかのひまわり絆プロジェクトは種まきから収穫まで終えることができた ・マスコットは現在制作中	B	・後期生徒会執行部の活発な活動を促す ・制服の指導、自転車ヘルメット着用指導について執行部との連携を検討
				・外部指導者、部活動指導員の活用や効率的な練習方法を研究・導入し、顧問の時間外業務を削減、地域移行に向けた部活動の在り方検討 ・アメリカ、韓国の姉妹校との交流の継続促進	・部活指導員の活用により当該部活動における時間外業務は基準を下回っている ・校長の書を送るなど学校として関係を継続している	A	・今後も適切な指導時間となるように努める
				・生徒情報を共有し、適切な支援ができる	・校内研修、委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応	B	・第2回教育相談連絡会は11月に実施予定 ・迅速な情報共有を積極的にに行い、早期の人間関係修復や解決への道へつなげる
	○支援が必要な生徒への援助		・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む	・学校生活アンケート(年2回実施)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようにきめ細かい支援の実施	・9月に行った学校生活アンケートで自己肯定感が高いと回答する生徒は87%いたが、Googleフォームによるアンケートで提出率が88%であった	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する ・アンケートの提出率が上がる方法を検討する
				・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化した学習を構築	・9月より全学年で人権教育LHRを実施している ・クラスの人権教育LHRでは、人権委員が原案作りに参加し、クラス発表会での司会を務めた	B	・人権学習委員を主体的に活動させる
3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実			・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	・2・3年次生の「探究」の時間にSDGsの視点を導入し、1年次生においてもSDGs講演会を予定しており全学年を通じた系統的なキャリア教育の構築に努めた	B	・クローバープロジェクト部会を中心として今後も継続して実施する
	○キャリア教育の発展	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めた。 ・キャリアパスポートの作成はできたが、進路指導への活用について検討が必要であった。 ・大学進学19名(内国公立5名)の結果であった。 ・コロナ禍であったため医療現場の見学・交流が困難であった。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成	・キャリアパスポートを活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組	・キャリアパスポートを予定どおり作成し、生徒が学期ごとの振り返りで成長を実感している ・進路指導におけるキャリアパスポートの活用方法について検討が必要	C	・継続して取り組む ・振り返りの時間の確保が必要
				・学習成果発表会における他校生徒との交流	・1月の実施に向けて準備を進めている	B	・他校の生徒を招いての交流は困難だが、オンライン方式での交流について検討
	○進路指導の充実		・大学進学25名以上(内国公立5名以上) ・教員の進路指導力の向上と外部指導者の活用	・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	・新規事業で運営に課題が残るが、予定通り実施できており、生徒の意欲の向上がみられる ・公務員試験合格 警察1次2名 自衛隊一般曹候補生2名	A	・継続して実施
				・教員研修と進路希望検討会、探究学習の充実による進路保障	・進路希望検討会(2・3年)は実施済み ・進路実現につながる探究学習を目指してスタートしたところである	B	・教員研修は3学期に実施を予定 ・小論文対策研修なども実施したい
				・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施による進路実現	・新型コロナ感染症のため実施できていない ・病院主催の看護体験には参加できている	C	・オンラインでの実施等代替策を検討する
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	・コロナ禍でのイベントのため制限や中止、施設への訪問ができない状態が相次いでいたが、開催をする工夫等を行った。 ・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・学校運営協議会の活動の活性化がコロナ禍のために不十分であった。 ・情報発信については、ホームページ、フェイスブック、youtube とも適切な時期に活用ができた。	・文化芸術活動、系列での事業を通して地域のニーズに積極的に答える	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス)	・手話パフォーマンス甲子園(放送)、米子ケヤキ通り祭り(書道・ダンス)、四日市町壁画制作・米子市環境3Sプロジェクト(美術)など参加	A	・ハイホット・ダンスフェスティバル、吹奏楽部定期演奏会を実施予定
				・系列事業における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室)	・各事業を予定通り実施し、地域貢献への意識が高まっている ・はるかのかのひまわり絆プロジェクトを実施 ・自転車ヘルメット着用指導はできていない	B	・第2回植栽は10月に実施予定
	○積極的な社会参画と情報発信		・社会に繋がる教育活動を推進	・高校生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化	・実施に向けて準備中	B	・中学校だけでなく小学校でも実施予定
				・マスコットキャラクターを活用した各種イベントへの積極的参加	・近隣の小学校、公民館へ名前の募集を依頼し決定	B	・10月には着ぐるみも完成、各種イベントへ参加予定
				・総合美術展の開催による情報発信	・実施に向けて準備中	B	・1月実施予定
				・ホームページでのタイムリーな情報発信	・情報発信はできている	A	・継続して実施

評価基準 A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要